

## 議 事 録

議 題	令和3年度一般社団法人東京都中小建設業協会との意見交換会	
日 時	令和3年 11 月 29 日(月)10:00～11:30	
場 所	東京都中小建設業協会 5階会議室	
出 席 者	■(一社)東京都中小建設業協会	7名
	□東京都住宅政策本部	7名
配布資料	○年間発注予定表(令和3年 11 月 24 日時点) ○今年度発注案件における既存住棟の解体の状況(令和3年8月 31 日時点) ○「技術者育成モデル JV 工事」の発注予定について(令和3年6月 23 日付財務局)	
議 事 内 容		
<p>1. 挨拶・自己紹介</p> <p>2. 議題</p> <p>(1) 今後の発注予定について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 今年度の発注予定について、年間発注予定表のような状況のため、応札の参考にさせていただきたい。</li> <li>■ 通常発注方式だと過去の工事の加点が受注時に考慮されないが、総合評価方式であれば過去の工事の加点が受注時に考慮されるため、総合評価方式の発注増を希望する。</li> <li>■ ただし、総合評価方式が多過ぎると新規参入業者が不利になる等の懸念があるので、導入の仕方は工夫が必要である。</li> <li>□ 総合評価方式は、土木工事は進んでいると思うが、建築工事だと評価が難しい場合もあると聞いている。</li> <li>■ 参加者が少なくなるという懸念があったとしても、企業は発注に合わせて努力をしていくので、総合評価方式の発注増をお願いしたい。</li> </ul> <p>(2) 既存住棟の解体状況のHP掲載について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 今年度発注予定団地の解体状況について、定期的にHPを更新しているため、応札の参考にさせていただきたい。</li> </ul> <p>(3) 技術者の活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 技術者育成モデル JV 工事について、来年度以降も、引き続き年数件発注する予定なので、ご協力をお願いしたい。</li> <li>■ 本モデル JV 工事は、貴重な工事なので、今後も是非お願いしたい。</li> <li>■ 中小企業でも、大手と大差ない会社もあるので、第一順位企業の条件を緩和し、中小企業でも第一順位企業として参加できるようにできないか。</li> <li>■ 例えば、過去に一定額以上の工事を受注した実績がある等の条件はどうか。中小企業が第一順位企業として参加可能になれば、不調も減るのではないか。</li> <li>□ 今年度から実施しているモデル工事の現場において、課題抽出等を行い、今後の対応について検討していく。</li> </ul>		

- 女性活躍モデル工事は、最初から女性技術者がいなくてもいいのか。
- 工期の半分上女性技術者が担当していればモデル工事の対象となる。
- 女性技術者ではなく、交通誘導員等の女性技能者は対象になるか。
- 本モデル工事は技術者が対象のため、技能者は対象ではない。

#### (4) 週休2日制の導入について

- 東部事務所 1 現場、西部事務所 1 現場でモデル工事を施工中であり、今のところ両現場とも工期内で週休 2 日が達成できる見込みである。
- 協会内の会員企業にアンケートをとったが、週休2日工事の場合でも、現場は休んでいるが、職員は書類作業が必要で休めていないという結果であった。
- 通常の工事と比べ工期はどの程度多くしているのか。
- 現在行っている2つのモデル工事では、どちらも60日程度長く工期を設置している。
- いつからモデル工事ではなく、本格実施する予定か。
- モデル工事の状況を見て判断したい。
- 労務単価は、国交省が変えないと都独自で増額するのは難しいのか。
- 国交省が変えないと難しい。
- 技能者は、週休 2 日となり現場が休みになる日は、他の現場に行っているのか。
- 他の現場に行っている技能者もいると思う。

#### (5) 書類削減等生産性向上の取り組みについて

- 現在、さらなる書類削減に向けて、全庁的に検討中である。
- 協会としては50%の書類削減の実現をお願いしたい。
- 建築工事においては、書類の作成、確認により品質管理をしている状況の中、品質を落とさないで、どの書類が削減できるか、意見を伺いたい。
- 「あったら良い」の書類を削減できないか。他工事で提出された書類の提出を監督員から念のため求められることがあるが、国交省発注工事の場合、定められた書類以外のものを提出すると減点になる。
- クラウドサーバを利用し、日ごろからデータを共有しておけば、提出が必要な書類が削減できるのではないかと。
- 押印廃止のために複数の確認事項が出てしまうので、押印した方が早い場合がある。
- 時代に合わせて削減できるものを削減していかないと、若手社員が付いてこない。
- 官民一体でプロジェクトチームを組んで取り組んでいけないか。例えば、書類削減に意欲的な会社が受注している現場で、意見交換を行い、検討していく方法はどうか。
- モデル現場で意見交換をする方法は良いと思うので、実施の際は協力をお願いしたい。
- 都営住宅工事では、他局に比べ比較的書類削減していると認識しているが、さらなる削減に向け今後も検討していきたい。

#### (6) 工事現場における遠隔臨場(オンライン会議、ウェアラブルカメラの活用等)について

- 東部事務所 2 現場、西部事務所 2 現場での試行を開始しており、定例会議等を遠隔臨場で行い、効果を検証中である。
- 地中障害等の場合、現地との打ち合わせをオンライン会議でできる環境は有効である。

#### (7) BIM の活用について

- BIM について、事前に活用状況等をお聞きしたが、導入を進めるには、どのような取り組みが必要となるか。
- ソフトの導入による初期費用等がかかるため、発注者側が費用を計上してくれるなら対応できるかもしれない。
- 建築だけでなく、電気や機械の各会社が共有できないと効果が薄い。都営住宅は単純な工事であるため、そもそも BIM を活用する必要があるのか疑問。
- 導入の検討はしたいが、できるかどうかわからないというのが正直な考えである。
- 設計分野は ICT で時短になっているが、施工分野では ICT であまり時短になっていないことが多い。費用対効果が出ないと、働き方改革になるのか分からない。
- 今後の進め方について、引き続き意見交換を行いたいので、ご協力をお願いしたい。

#### (8) その他

- フローリングの台材に国産木材も利用できるよう、本年 10 月に標準仕様書を改定したので、国産木材の利用推進をお願いしたい。